

黒潮一番地宣言

カツオは古来、花鳥風月を愛する日本人の食と文化に大きな影響を与えてきました。

ところが、カツオの一本釣りの盛んな黒潮町の漁業者から「カツオが、これまでのように獲れなくなっている・・・」という直感的な不安が発信されたことから本日のフォーラムが計画されました。

本日は、カツオにゆかりがあり、産・学・官の各界でご活躍されている方々をパネリストとしてお招きしご意見を伺うとともに、カツオ産業の盛んな各地域の情報交換を行うことができました。その結果、様々な問題や課題、そして可能性が明らかになってきたと思います。

私達にとって、これまで身近な食材であったカツオ資源の実態はどうなっているのか。また、カツオの食文化とその高付加価値化や有効利用方法はどのように変化し、どのような可能性があるのか、まだまだ継続した調査・研究と課題への挑戦が必要ではないでしょうか。

カツオ資源の実態を把握するためには、海洋資源調査機関のデータのみならず、日々海の上でカツオを追っている漁業者の目による観察情報は、特に貴重な指標として認識する必要があります。

一方、有効活用によるカツオ資源の可能性を高めるためには、産業界の積極的な参画を得ることが大切です。

そこで、本フォーラムをきっかけとして、将来にわたり、日本人とカツオとの上手な付き合い方を探るために、カツオ産業の盛んな地域と産・学・官の関係者及びカツオに関心が深い人々が集い、情報交換をはじめ、調査・研究及び意見交換を継続して行なう機会、「カツオ学会」のような仕組みを創設していくことを、本日参加者の賛同を得てここに宣言したいと思います。

2009年10月31日
高知県・黒潮町